

千葉大学 × 京葉銀行 eCOプロジェクト  
CHIBA UNIVERSITY BANK

# 7色の虹を千葉から未来へ

2017年度 プロジェクト実施報告書（抜粋版）



千葉大学環境 ISO 学生委員会

2018年3月19日

# 目次

<b>0、はじめに</b>	<b>2</b>
(1) プロジェクトの概要	
(2) プロジェクト発足における共同記者会見	
<b>1、京葉銀行による学生委員会の環境活動支援</b>	<b>4</b>
(1) 国内外への学生派遣	
① The International Sustainable Campus Network (ISCN) 2017 報告	
② 第 11 回環境マネジメント全国学生大会報告	
③ CAS-Net JAPAN 2017 年次大会報告	
④ ACCS2017 年次大会報告	
⑤ 第 22 回四国青年環境系合宿四国ギャザリングについて	
(2) 学生の環境活動支援	
① 「Chiba Winter Fes 2018 ～千葉からエコを広げよう～」	
<b>2、学生による「エコアクション 21」取得コンサルティング</b>	<b>11</b>
(1) エコアクション 21 の紹介	
(2) 本企画の概要	
(3) 実施体制	
(4) 進捗状況	
<b>3、学生発案の 7 つの環境貢献企画</b>	<b>12</b>
(1) 7 つの企画決定までの経緯	
(2) 各企画の進捗状況	
① 千葉大生とともに考える 企業のための環境ゼミナール (通称エコゼミ)	
② こどもエコまつり	
③ 千産千消フェア ～ちばを食べてエコしよう～	
④ Chiba クリーンアクション	
⑤ 都市鉱山発掘プロジェクト	
⑥ エコ発信局	
⑦ 京葉銀行エコチャレンジ	
<b>4、プロジェクトの広報内容と結果について</b>	<b>19</b>
(1) プレスリリース	
(2) 新聞記事	
(3) テレビ露出	
(4) イベントにおける広報	
(5) 表彰	
<b>5、まとめと来年度の展望</b>	<b>23</b>
(1) 総括	
(2) プロジェクトリーダーより	

## 0、はじめに

### (1) プロジェクトの概要

#### ● 発足経緯

国立大学法人千葉大学と株式会社京葉銀行は、2012年に包括的連携協力に関する協定を締結し、地域に様々な付加価値の提供と、地域社会、経済、産業の発展と活性化に積極的に取り組んできた。

千葉大学は2005年に国際規格のISO14001を取得し、学生主体の環境マネジメントシステムを実施してきた。「千葉大学環境ISO学生委員会」は2003年に発足して以来、千葉大学の環境マネジメントシステムの運用を担うとともに、大学内と地域の環境意識の向上を促進するため、様々な環境活動を行ってきた。

京葉銀行では地元企業として地域のよりよい未来のために、これまでも地域貢献や社会福祉活動、文化・スポーツ振興等に取り組んできた。環境面においてもお客さまの環境意識の高まりを受け、定期預金の満期案内を環境保全に変える「エコプロジェクト」や「ちば環境再生基金」への寄付活動、環境配慮型商品のご案内等のお客さま参加型の環境活動を実施しており、今後更なる環境への取り組みを模索している。

このような背景から、京葉銀行と千葉大学環境ISO学生委員会が協同し、「地域の環境負荷削減と環境意識向上に貢献したい」という思いから本プロジェクトが発足した。

#### ● 名称

7色の虹を千葉から未来へ ～千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト～

#### ● 目的

環境活動促進 + 地方創生 + 学生の社会勉強 →→ 地域活性・環境への貢献

- ① 県民の皆さまや京葉銀行の役職員、お取引先企業、千葉大生に対する環境意識の啓発活動
- ② ①の活動による地域社会の活性化と環境負荷削減への貢献
- ③ 京葉銀行の役職員や多様な主体と協同することによる学生の社会勉強の機会

#### ● 名称とロゴに込めた思い

千葉大学と京葉銀行が連携して、様々な環境活動を行うことで、千葉県から未来の地球に貢献するという思いがこもっている。その活動の主体として、ロゴの中心には千葉大学環境ISO学生委員会のキャラクターである「いそちゃん」がデザインされている。デザインは学生委員会の学生が行った。

#### ● 内容

プロジェクトの内容は大きく3つある。



### 1) 京葉銀行による学生委員会の環境活動支援

国内外の環境系のシンポジウムや大会等で、千葉大学の学生による先進的な環境への取り組みを発信していく。これにより、サステナブルキャンパスの推進に貢献するとともに、学生にとってはプレゼンテーション経験や他大学との交流ができる機会となる。京葉銀行は学生派遣の旅費等の資金を提供するほか、企業が持つ知見やノウハウを活かしアドバイスするなど学生を支援する。

### 2) 学生による「エコアクション21」取得コンサルティング

企業が環境に配慮した事業活動を促進することは、地域の環境負荷削減や環境意識の向上に貢献することから、千葉県内の企業のエコアクション21（以下 EA21）取得を促進する。京葉銀行が取引先企業を紹介し、学生が EA21 のコンサルティングや環境レポート作成補助を行う。学生にとってはコンサルを通じた環境教育と企業とのかかわりによる社会経験となる。

※エコアクション21= 環境マネジメントシステムの認証

### 3) 学生発案の7つの環境貢献企画

地域の方々や京葉銀行の関係者の方々に對して、環境意識の啓発につながるイベント等の活動を行う。京葉銀行は主に個々の企画の開催段取りを行い、学生はコンテンツを作成・当日運営を担当する。学生にとっては環境教育や実務教育の機会となる。

## (2) プロジェクト発足における共同記者会見

2017年7月にプロジェクト発足を発表する記者会見を行った。

- 日時：2017年7月21日（金）13:00～14:00
- 場所：京葉銀行 千葉みなと本部 2階ホール
- 出席者：京葉銀行3名、千葉大学学生13名、教職員2名
- 内容：

- ・千葉大学、京葉銀行より挨拶
- ・千葉大学環境 ISO 学生委員会について
- ・プロジェクトの内容について
- ・質疑応答
- ・フォトセッション

- マスコミ出席者：

日本経済新聞、読売新聞、毎日新聞、千葉日報、日刊工業新聞、時事通信社、ニッポン、金融経済新聞、千葉テレビ、NHK千葉放送局、ポイックス



## 1、京葉銀行による学生委員会の環境活動支援

- 概要

京葉銀行の寄付により、学生委員会の環境活動を支援する。主に、旅費等を支援し、学生委員会のメンバーが国内外の環境系の会議や交流会等に参加する。

- 目的

国内外の環境系の会議や大会等で、千葉大学の学生主体の先進的な環境への取り組みを発信していくことによって、サステイナブルキャンパスの推進に貢献する。また、プレゼンテーション経験や他大学との交流は学生にとって貴重な機会となるほか、他団体等との交流を経て活動のさらなるレベルアップに資する経験・知識を得る。

- 寄付金額

200万円

### (1) 国内外への学生派遣

国内外5つの派遣先に、合計23名の学生を派遣することができた。

日程	会議・大会名	開催場所 (派遣先)	派遣 学生数	旅費・参加 等の費用
2017年 6月26日 ～28日	The International Sustainable Campus Network(ISCN)2017	カナダ・ブリ ティッシュコ ロンビア大学	3名+ 引率教員 1名	約103万
9月13日 ～14日	第11回 全国環境マネジメント学生大会	岩手大学	10名	約38万
11月17日	サステイナブルキャンパス推進協議会 2017年次大会	愛媛大学	4名	約18万
12月9日 ～10日	The 3 <sup>rd</sup> Asian Conference Sustainability (ACCS)	京都大学	3名	約12万
2018年 3月9日 ～11日	第22回四国青年環境系合宿四国ギャザリン グ	愛媛県国立大 洲青少年交流 の家	3名	約18万

以下、各会議の報告概要である。

## ① The International Sustainable Campus Network (ISCN) 2017 報告

### ● ISCN とは

ISCN (International Sustainable Campus Network) とはスイス連邦工科大学が中心となって 2007 年設立された非営利団体で、サステイナブルキャンパス構築に取り組む世界的な大学ネットワークである。



### ● ISCN2017 カンファレンス概要

日 程：2017 年 6 月 26 日 (月) ~28 日 (水) @カナダ・バンクーバー

会 場：UBC (ブリティッシュ・コロンビア大学)

参加者：世界 30 カ国から 145 名

内 容：講演、セッション、ワーキンググループ、パネルディスカッション、シティツアー、キャンパスツアー、ポスターセッション、ケーススタディプレゼンテーション、ISCN Award 授賞式 ほか

### ● 千葉大学の受賞

**International Sustainable Campus Network Award 2017**

**Excellence in Student Leadership 賞**を受賞

ISCN Award はリーダーシップ、創造性、有効性、優れたパフォーマンスが認められる持続可能なキャンパスプロジェクトを表彰する制度。

Student Leadership 部門は、持続可能なキャンパスづくりに貢献したり、他の学生に効果を発揮するような活動を自発的に開始するよう促したりするような、優れた学生プロジェクトに与えられる。ISCN Award を受賞するのは日本の大学で初。

※プレスリリース 情報解禁の 6 月 29 日 (日本時間 30 日) に配信

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000186.000015177.html>

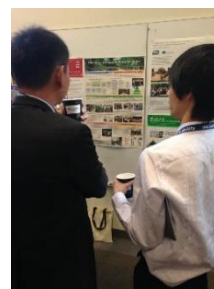


### ● 千葉大学からの参加者

- ・上野武教授      ・岡山咲子特任助教
- ・環境 ISO 学生委員会 嶺康平・井上香織 (法政経学部 3 年)、新谷有希奈 (同 2 年)

### ● 学生の参加状況

- ・ポスターセッションでは、他の参加者にポスターをもとに説明をした。
- ・ケーススタディプレゼンテーションは TED 形式で行われ、学生たちは 3 人で『What we earned by becoming NPO』をテーマに 7 分間のプレゼンを行い、大喝采を浴びた。参加者からは、「学生が頑張っている活動を学生自身が語ってくれたのでとても印象的だった」という感想が聞かれた。
- ・学生たちは全日程に参加し、海外の大学関係者と交流した。



## ② 第11回環境マネジメント全国学生大会報告

### ● 環境マネジメント全国学生大会とは

全国の環境系の活動に携わる学生、興味のある学生が集まり、他大学との連携を深め、他大学の良い点を吸収していくことで、自団体の活動の発展を目指していく。

今年度は岩手大学環境マネジメント学生委員会の主催の元、岩手大学にて開催された。

### ● 大会概要

日 程：2017年9月13日(水)～14日(木)

会 場：岩手大学 学生センターA棟

参加者：6大学（8団体）から74名

テーマ：円滑な活動のための企画・運営を実行していくためには

内 容：基調講演、各団体の活動紹介、分科会、キャンパスツアー



参加者の集合写真

### ● 学生委員会からの参加者 計：10名

3年生：日隈 壮一郎

2年生：林田 裕紀、山口 逸平、菱田 朋佳、上田 幸秋

1年生：田中 真由、丸山 達也、八代 慈瑛、松野 明未、渡邊 道哉

### ● 学生の参加状況

・学生委員会の活動報告で10分間のプレゼンを行った。

この中で、京葉銀行との協同ecoプロジェクトについても発表した。

・キャンパスツアーに参加し、基調講演を拝聴した後、グループに分かれて分科会（ワークショップ）を行った。ワークショップ後はその成果を各グループごとに登壇し、発表を行った。



パワポ資料の一部



活動報告の様子



分科会の様子



参加したメンバー

### ③ CAS-Net JAPAN 2017 年次大会報告

#### ● CAS-Net JAPAN とは

CAS-Net JAPAN(Campus Sustainability Network in Japan)とは、サステイナブルキャンパス推進協議会のことである。この協議会の目的としては大学キャンパスにおいてハード面・ソフト面の双方からサステイナブルを促進する取り組みを加速させ、持続可能な環境配慮型社会構築に貢献することである。サステイナブルキャンパス促進に関する取り組みや成果を各大学が発表するのが年次大会である。

#### ● 年次大会の概要

日程：2017年11月17日(金)10時～17時半

場所：愛媛大学城北キャンパス

プログラム：第一部 全体シンポジウム（趣旨説明、講演、キャンパスツアー）

第二部 事例発表（学生活動・地域連携部門、大学運営部門、建設・設備部門）

第三部 まとめ・表彰式（第二部事例発表のセッション報告、表彰と表彰事例の報告）

#### ● 参加学生 4名

山口逸平（工学部・2年）、永富芳英・上田幸秋（法政経学部・2年）、志賀萌花（園芸学部・1年）

#### ● 学生の参加状況

- ・第一部の全体シンポジウムを聴講した。
- ・第二部の事例発表ではセッション1の学生活動・地域連携部門で発表を行った。
- ・「第3回サステイナブルキャンパス賞・学生活動・地域連携部門」を受賞したため、表彰式で受賞事例について、「地域の企業と協同して生むサステナビリティ」と題して発表した。この中で、京葉銀行とのecoプロジェクトについても発表した。また、受賞事例の報告の中で選ばれる「特別賞」も受賞した。



キャンパスツアーの様子



第2部の事例発表の様子



サステイナブルキャンパス賞授賞式の様子



賞状



#### ④ ACCS2017 年次大会報告

##### ● ACCS とは

ACCS (Asian conference on campus sustainability/サステイナブルキャンパス・アジア国際会議)とは、持続可能な社会を実現のため、アジアにおけるサステイナブルキャンパスの推進を目的として、アジア（日本、中国、韓国、タイ）の大学関係者（教職員・学生）が集まり、各大学の取り組みや成果を紹介し、情報交換を行い、議論を深める場である。

##### ● 本会議の概要

日 程：2017年12月9日(土) 13:30~17:45、12月10日(日) 9:30~15:00

場 所：京都大学吉田キャンパス・国際科学イノベーション棟

参加者：教職員および学生 初日130名、二日目110名

主 催：京都大学環境安全保健機構・京都大学施設部

共 催：サステイナブルキャンパス推進協議会（CAS-Net JAPAN）、韓国グリーンキャンパス協議会（KAGCI）、中国緑色大学連盟（CGUN）、タイ サステイナブル大学ネットワーク（SUN）

プログラム：1日目 基調講演（EAUC）、パネルディスカッション

2日目 パラレルセッション（セッション1 学生発表、セッション2 持続可能な地域づくりと大学の役割）、講演、表彰、京都宣言2017



##### ● 参加学生

岡桃菜（国際教養学部・2年）、落合優衣（教育学部・2年）、八代慈瑛（法政経学部・1年）

##### ● 学生の参加状況

学生3名が参加し、1日目は講演を聴講、2日目の学生発表部門（3カ国7大学から15名の学生が発表）の司会を行い、千葉大学の事例紹介も行った。事例紹介の中で、京葉銀行との協同ecoプロジェクトについても発表した。また、クロージングセレモニーでの表彰式の司会も行った。そのほかレセプションにも参加し、他大学の学生などと交流を深めた。



千葉大学の取り組み紹介



表彰式の司会進行



表彰式での記念撮影



レセプションでの様子

## ⑤ 第22回四国青年環境系合宿四国ギャザリング報告

### ● 四国ギャザリングとは

「考えて、行動する～Outlookin'for Futural yourselves～」

四国青年環境系合宿四国ギャザリングでは、世界で起こっている様々な環境問題について多くの青年たちと意見や情報、考えを共有し、青年活動家を増やしていくことを目的としている合宿。

過去と現在で環境問題はどのように変化してきたのか。そして、未来のために今私たちにできることは何なのか。2泊3日の合宿を通して、様々な問題へのアプローチ方法を考えることや、それらに関する意見・情報の共有、自由な問題提起、議論、発表などを行い、同世代の仲間たちと改めて環境について見直す。このイベントは年に2回継続的に開催され、今回で22回目となる。

今回は、千葉大学環境 ISO 学生委員会の取り組みを知った実行委員会から参加要請があった。

### ● 第22回の開催概要

日 程： 2018年3月9日(金)～3月11日(日)

会 場： 愛媛県国立大洲青少年交流の家

参加大学： 松山大学、聖カタリナ大学、香川大学、四国学院大学、香川高等専門学校、四国大学、徳島文理大学、徳島大学、高知大学、高知県立大学、高知工業高等専門学校、高知工科大学、美作大学、岡山理科大学、近畿大学、関西学院大学、立命館アジア太平洋大学、佐賀大学、藍野大学、東北福祉大学、岩手大学、明治大学、千葉大学、社会人

参加者数： 91名

内 容： 寝食や清掃を共にしながら、3日間で5つの企画（グループワーク）のほか、講演会、キャンドルナイト、自主企画で自由に発表するなど、盛りだくさんのプログラムであった。

### ● 参加学生

石塚郁海（法政経学部・2年）、丸山達也（工学部・1年）、中原雛子（法政経学部・1年）

### ● 学生の参加状況

全日程に参加し、「生物多様性」をテーマに企画①～⑤では、絶滅危惧種、生態系ピラミッド、人間が生態系に与える影響などについてグループワークを通して、意見交換を行った。自主企画発表時間で、学生委員会の活動について共有し、ディスカッションを行った。全体を通じて、他の参加者と交流を深めると同時に、意見／情報交換をして、それぞれの価値観や考えを共有することができた。



集合写真



グループワーク



自主企画の様子



## 2、学生による「エコアクション21」取得コンサルティング

### (1) エコアクション21の紹介

エコアクション21(以下 EA21)は、平成8年に環境省が策定したガイドラインである。このガイドラインの運用によって、環境・エネルギーに配慮した組織づくりを進めることができる。主に中小企業を対象にしているため、費用・手続き面でISO取得に難がある企業でも取り組み、確実な効果を期待することができる。



### (2) 本企画の概要

#### ● 概要

京葉銀行が取引先企業を紹介し、学生がEA21のコンサルティングや環境レポート作成補助を行う。

#### ● 目的

企業が環境に配慮した事業活動を促進することは、地域の環境負荷削減や環境意識の向上に貢献することから、千葉県内の企業のEA21取得を促進する。学生委員会が培ってきた環境マネジメント運用のノウハウを地域に還元しつつ、学生にとって貴重な社会経験の場を設ける。

#### ● 内容

- ・勉強会の実施(訪問形式・全5回)

企業に訪問し、環境マネジメント運用ノウハウをもとに適切なコンサルを行う。

- ・環境活動レポート作成支援

取得・認証に必要な環境活動レポートの作成支援。環境報告書作成から得た知見が活用できる。

### (3) 実施体制

本企画は、EA21中央事務局と地域事務局・千葉環境財団の協力のもと実施する。

### (4) 進捗状況

- EA21中央事務局と地域事務局、千葉環境財団との調整
- 京葉銀行から取引先企業の紹介、対象企業が決定
- 来年度以降、本格的にコンサルを開始する予定



### 3、学生発案の7つの環境貢献企画

#### ● 概要

環境 ISO 学生委員会のメンバーが、活動の中から得た経験や知見をもとに立案した7つの環境貢献企画を実施し、幅広い層に対して環境負荷削減・意識向上を呼びかける。

企画の実施にあたっては、学生委員会が具体的な計画や当日の主な運営を行い、京葉銀行には関係先との調整や運営の補助などをしていただくという役割分担になっている。

#### ● 目的

地域住民、京葉銀行関係者、千葉大生などを対象として、環境意識の向上を目的とした啓発活動を行うことにより、地域の環境負荷削減と地域活性化を目指す。また、学生にとっては各企画の運営を行うこと自体が環境教育や実務教育の機会となる。

#### (1) 7つの企画決定までの経緯

本環境貢献企画は、以下のようなプロセスを踏んで決定された。

2017年 5月18日	有志の学生による初回ミーティング プロジェクトリーダー決定・案出しを開始
5月26日	100個出た案から27個にしぼる
6月9日	京葉銀行と学生委員会の初回ミーティング 27個の案を7個にしぼる ⇒ 7つの企画の原型
6月23日	京葉銀行との第2回ミーティング 7つの案のブラッシュアップ ⇒ 現状の7つに
7月3日	京葉銀行との第3回ミーティング 企画の詳細と記者会見について
7月21日	記者会見にて発表



ミーティングの様子

①千葉大生とともに考える  
企業のための環境ゼミナール

⑤都市鉱山発掘プロジェクト

②こどもエコまつり

⑥エコ発信局

③千産千消フェア  
～ちばを食べてエコしよう～

⑦京葉銀行エコチャレンジ

④Chibaクリーンアクション

決定した7つの企画

## (2) 各企画の進捗状況

### ①千葉大生とともに考える 企業のための環境ゼミナール (通称エコゼミ)

#### <概要>

京葉銀行の取引先企業、環境に関心のある企業を対象に、千葉大学の事例と、環境配慮の知識などについて発信する。京葉銀行が機会を提供し、学生が講師を務める。

#### <目的>

企業が環境への取り組みを強化することは地域社会、ひいては地球環境への好影響につながる。本ゼミナールがそのきっかけとなるよう、環境にやさしい知識を伝えていく。

#### <実施状況>

京葉銀行主催の『企業を変える人材活用 千葉県プロフェッショナル人材戦略拠点セミナー』において、学生委員会が30分間講演した。

日時：2017年11月15日(水) 14:00~16:30

(学生講演時間 16:00~16:30)

場所：オークラ千葉ホテル「ウィンザールーム」

セミナー参加者：中小企業経営者等 74名

発表タイトル：

「オフィスエコのススメ」

～千葉大学における環境負荷・コスト削減の事例～

発表内容：

- I. 千葉大学の環境への取り組み・学生委員会の活動とその特徴
- II. PDCA サイクルと学生の関与
- III. オフィスにおけるエコアクション



会場の様子



プレゼンの様子

## ②こどもエコまつり

### <概要>

環境 ISO 学生委員会が培ってきた環境教育の知見やノウハウを使って、地域の子どもたちを対象としたイベントを実施する。イベントはゲームや工作体験を通じて、環境について考える機会を提供する。京葉銀行はイベントの実施場所・機会を提供する。

### <目的>

持続可能な社会の構築が求められている現代において、環境教育は非常に重要なファクターである。本企画では、子ども向けの環境意識啓発のイベントを実施することで環境教育を推進する。

### <実施状況>

#### ● こども探検ツアー

京葉銀行本店で行われた「こども探検ツアー」で子どもたちに、ゲーム・エコクイズ・オリジナルうちわづくりを行った。

日時：2017年8月3日（木） 13:15～14:30

場所：京葉銀行本店営業部

結果：23名の子どもが参加した。エコクイズに真剣に取り組んでおり、記念となるオリジナルうちわも作成したため、環境に対する関心は増したと考えられる。



#### ● こどもエコまつり in 保田小学校

千葉県安房郡鋸南町にある道の駅「保田小学校」で、4つの体験・ゲームを通して、環境・エコ・分別についての知識を得て家庭に持ち帰ってもらう、子ども向け環境教育イベントを開催した。

日時：2017年8月20日（日） 11:00～15:00

場所：道の駅「保田小学校」

内容：①紙すき体験 ②魚釣り分別ゲーム ③エコ・昆虫クイズ

④オリジナルうちわづくり。同時にスタンプラリーも実施した。

結果：100家族以上が参加した。（紙すきを体験107名、うちわ製作115名）

紙すきなど体験していない子どもや保護者を加味すると、

来場者数は300～400名だったと見込まれる。



紙すき体験



魚釣り分別ゲーム



うちわづくり（うちわの片面はエコアイデアの塗り絵）



### ③千産千消フェア ~ちばを食べてエコしよう~

#### <概要>

地産地消を千葉に根差した形で行う企画である。地域の方や千葉大学の学生・教職員に対して千葉の特産品を販売し、地産地消を紹介・推進する。学生委員会が場を提供し、京葉銀行が農家と連携して出店する。

#### <目的>

地元の食材を地元で消費することによって、運送等の段階で生じる二酸化炭素などを最小限に抑える取り組み、地産地消を推進することである。同時に地域の特産品のPR効果もあり、市町村の地域活性化を支援することにもつながる。

#### <実施状況>

学生委員会が主催する環境啓発イベント「Chiba Winter Fes 2018」の飲食ブースにおいて、千葉の特産品・特産品を加工した食品を販売。京葉銀行が農家等と連携して出店。

日時：2018年2月12日（月・振休） 10:00～17:00

#### 結果：

イベント自体への集客数は約1500人。学生・教職員や地域の市民、親子連れなどが多かった。当日は、野菜農家・落花生の加工品取扱業者に参加していただき、循環型農業を目指し自然由来の有機肥料を多く利用した落花生やトマト、ねぎ、小松菜、ほうれん草、みょうが、人参、白菜、かぶ、いちごなどが販売された。



イベントポスター



農産物の販売テント



落花生加工品の販売テント



販売の様子



#### ④Chiba クリーンアクション

##### <概要>

自治体や学生、地元住民と協力して海岸清掃や街角でのごみ拾いなどを想定している。単なる清掃活動でなく、ゲーム要素を取り入れるなど楽しんで参加できる企画を目指す。

##### <目的>

環境ボランティア体験を行うことで、環境意識を高めるとともに、環境活動を積極的に行うきっかけづくりとする。

##### <実施状況>

連携先を検討してきたが、現在未実施  
来年度に実施できるよう引き続き、調整を続けていく。



イメージ図

#### ⑤都市鉱山発掘プロジェクト

##### <概要>

京葉銀行の支店に小型家電の回収ボックスを設置し、銀行の顧客（市民）や行員から不要となった小型家電を集めてリサイクルする。

##### <目的>

小型家電の回収・リサイクルを促進することにより、市民の環境負荷低減や資源再利用への意識を啓発する。

##### <実施状況・今後の予定>

役割分担：

①千葉大学環境 ISO 学生委員会

国の規定に則った仕様で、ダンボールで回収 BOX を製作

②株式会社京葉銀行

R-HD 収運積替委託先として届け出るため、役員が講習を受講（2018年1月実施済み）

千葉市内 10 支店に回収 BOX を設置する（2018年4月予定）

③リバーホールディングス株式会社（R-HD）

国から認定を受けた小型家電の認定事業者。小型家電の回収・運搬とリサイクルを行う。

回収品目：8品目

携帯電話(スマートフォン含む)・タブレット端末、時計、携帯ゲーム機、デジタルカメラ  
音楽プレーヤー、電子辞書、電子書籍端末、電卓

回収期間：2018年4月～2019年3月（予定）



## ⑥エコ発信局

### <概要>

Web ページや京葉銀行の刊行物を通じ、京葉銀行の取引先企業や行員、市民に向けて環境負荷削減のための様々な情報発信を行う。京葉銀行が場を提供し、学生委員会がコンテンツを作成する。

### <目的>

環境負荷削減のためのアイデアなどを学生目線で発信し、環境意識の啓発・行動の実践を促す。

### <実施状況>

#### ● 特設ホームページ

京葉銀行のサイト内に本プロジェクトの特設ページを作成していただき、Web ページを通して、プロジェクトや各企画について発信した。2017年9月19日にオープンした。



#### ● エコ啓発記事「いそちゃんの部屋」

特設ページの中に「いそちゃんの部屋」と題した専用のページを設け、身近なエコに関する知識を発信していく。季節やブームに合わせて、月に一度のペースで更新する。2017年9月号から開始した。

#### ● 京葉銀行情報誌「きずな」への寄稿

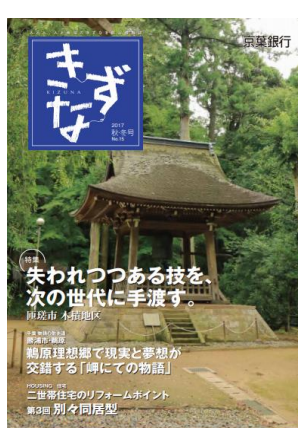
京葉銀行の情報誌「きずな」に寄稿し、学生委員会・本プロジェクト・省エネ豆知識を紹介した。No.15「きずな 2017 秋・冬号」(2017年10月12日発行)に1ページの掲載であった。



「いそちゃんの部屋」2018年3月号



「きずな」寄稿ページ



## ⑦京葉銀行エコチャレンジ

### <概要>

学生が支店を訪問してエコアイデアを提案し、それをもとに、京葉銀行の支店ごとに省エネ・省資源に関する目標を設定する。支店ごとに目標達成に向けて取り組んだのち、取り組み状況や成果などを評価する。支店への表彰も視野に入れる。

### <目的>

学生と京葉銀行がエコアイデアの提案という形で交流し、各支店の環境意識向上から環境負荷削減や経費節減を目指す。学生の貴重な社会経験の場とすることもねらいの1つである。

### <実施状況>

#### ● 省エネ省資源行動チェックシートの原案作成

学生委員会の方で千葉大学が内部監査において使用している「エネルギー効率改善チェックシート」をリバイスし、京葉銀行の支店チェックで用いるチェックシートの原案を作成した。

#### ● みどり台支店 エコチェック

2017年8月9日、サンプル調査として学生が京葉銀行みどり台支店を訪問。聞き取った情報とチェックシートの原案を比較し、実情にそぐわない項目の削除・不十分な項目の追加を行い、シートをブラッシュアップした。

実施	確認等	有無	エコアイデア	実施状況
省エネ	省エネ	○	様々な電源(夏は26度、冬は20度)を目前にエアコンを使用できるように、呼びかけ(ポスターやステッカーの貼付、または声かけなど)を行っている。	
		○	室内に温度計を置いている。	
照明	照明	○	営業時間内(お客様がいる時間)と営業時間外で設定温度を変えている。	
		○	フィルターの掃除を定期的に行っている。(年に数回程度、メーカーの指定は2週間(1回程度))	
テレビ・液晶パネル	テレビ・液晶パネル	○	お客様に、夏はつらね、冬はブランケット等を配布したり、自由に取れるように設置したりしている。	
		○	省エネモードや待機モード等を利用して、窓からの熱の出入りを防いでいる。	
エネルギー	エネルギー	○	自然光を、電球型蛍光灯やLED電球に取り替えた。	
		○	廃止する場合は廃棄の処理をしている。	
パソコン	パソコン	○	作業が済んだら、使用していない機器の電源は必ずオフにしている。	
		○	営業時間外はお客様のエリアの照明をOFFにしている。	



聞き取り調査の様子



項目の検討



みどり台支店での集合写真

#### ● 「省エネ省資源行動チェックシート」及び「目標設定&実施計画策定シート」の完成

エコチェックをもとに「省エネ省資源行動チェックシート」を仕上げ、それと対応して目標や実施計画を策定するためのフォーマット「目標設定&実施計画策定シート」も作成した。

#### ● 実践

- ・2017年9月に2つのシートを各支店に配布し、手順に従って実践していただいている。
- ・2017年12月には各支店が記入した「目標設定&実施計画策定シート」が提出されている。
- ・年度末に結果・成果を集計し、何らかの対応を考えたい。



## (2) 新聞記事

### ● プロジェクト発足段階

掲載日	新聞種類	見出し
2017.6.24	千葉日報	千葉大との連携強化 京葉銀 学生発案で環境啓発
2017.7.22	千葉日報	学生企画で環境啓発 セミナーや家電回収 京葉銀と千葉大
2017.7.22	日本経済新聞	千葉大と京葉銀 地元の環境美化 セミナーや資源再利用
2017.7.24	朝日新聞	千葉大と京葉銀 環境で地域貢献 中小企業に助言
2017.7.24	日刊工業新聞	環境と地域支援策立案 千葉大と京葉銀 認証取得コンサルなど
2017.8.4	ニッキン	千葉大生と「エコ活動」 京葉銀、7アイデアを形に

### ● こどもエコまつり関連

掲載日	新聞種類	見出し
2017.8.4	千葉日報	小学生 26 人 銀行員体験 京葉銀、環境教室も
2017.8.21	千葉日報	楽しみながらエコ学ぶ 千葉大と京葉銀がイベント 鋸南
2017.8.21	毎日新聞	ゲームを通じて環境問題考える 鋸南でエコまつり

### ● Chiba Winter Fes 2018 関連

掲載日	新聞種類	見出し
2018.1.28	千葉日報	遊んで“エコ”知ろう 2月に千葉大生がイベント
2018.2.5	朝日新聞	エコを広げよう@千葉
2018.2.8	毎日新聞	楽しみながらエコ学ぼう 学生が環境フェス 千葉大で12日
2018.2.10	大学新聞	エコ意識啓発イベントを実施予定 千葉大学
2018.2.13	読売新聞	ゲームでエコ学んだよ 千葉大生企画のイベント

## (3) テレビ露出

放送日	局	番組名
2017.7.21	NHK	NEWS ちば 930
2017.7.21	千葉テレビ	首都圏ネットワーク
2018.2.8	千葉テレビ	シャキット!
2018.2.12	千葉テレビ	NEWS ちば 930
2018.2.16	J:COM	デイリーニュース

#### (4) イベントにおける広報

本プロジェクトについては学生委員会が出展した環境系イベントやセミナー等でも広報した。

- 2017年10月9日 エコメッセ in ちば
- 2017年11月18日 千葉商科大学公開講座
- 2017年12月7日～9日 エコプロ 2017
- 2018年2月12日 Chiba Winter Fes 2018



エコメッセ in ちば



千葉商科大学公開講座



エコプロ 2017

#### (5) 表彰

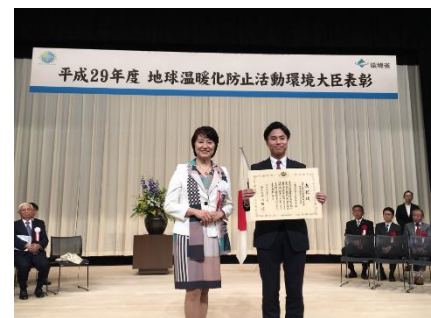
学生委員会では本 eco プロジェクトを含め、日頃の活動の成果を様々な表彰制度に応募している。その中で、当プロジェクトも評価されて受賞した賞が3つある。また、京葉銀行が受賞した賞が1つある。

##### ● 平成 29 年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰「対策活動実践・普及部門」

環境省が平成 10 年度から地球温暖化対策を推進するための一環として、毎年、地球温暖化防止月間である 12 月に、地球温暖化防止に顕著な功績のあった個人又は団体に対し、その功績をたたえるために行っている表彰。

表彰事例：「千葉大学における学生主体の EMS と環境 ISO 学生委員会の取り組み」

表彰式 : 2017 年 12 月 4 日



##### ● 第 3 回サステイナブルキャンパス賞「学生活動・地域連携部門」

持続可能な環境配慮型社会の構築に貢献することを目的に、サステイナブルキャンパス推進協議会会員による優れたサステイナブルキャンパス構築に係る取組事例を、表彰によって顕彰する制度。

千葉大学環境 ISO 学生委員会は 2015 年度に続き、2 度目の受賞となった。前回は 2003 年から継続してきた学生主体の環境マネジメントシステムの取り組みが評価されたが、今回はさらに活動を発展させた、企業と協同した地域貢献活動が評価された。

表彰事例：「地域の企業と協同して生むサステナビリティ」

表彰式 : 2017 年 11 月 17 日

審査講評：

産学連携による里山保全や様々な環境活動を地域ぐるみで推進し、環境保全をきっかけとした、企業支援による人材育成と地域連携の環境保全活動シーズ発掘は、特筆すべき取組みであり、サステナブルキャンパス賞にふさわしい。また、地元の金融機関である京葉銀行と対等に話し合っ  
てプロジェクトを行っていくこと、また、大学や企業だけでなく、そのステ  
ークホルダーを巻き込んだ活動であること。そして、7色の虹にそって未来に向けた7つの企画が、身近  
なところからステップ・バイ・ステップで進んでいくところなど素晴らしい。



### ● 低炭素杯 2018「優良賞」

全国の市民・企業・学校・自治体などの多様な主体が取り組む、地域や団体の特性に応じた個性的な温暖化防止の活動を、市民や他の活動団体に発表することにより、取組のノウハウや情報を互いに共有し、さらなる活動に向けて連携や意欲を創出する「場」となることを目指し、一般社団法人地球温暖化防止全国ネットが主催し、平成 22 年度から開催されている。

受賞事例：「千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト」

受賞日：2017 年 11 月 14 日



### ● 平成 29 年度 21 世紀金融行動原則「特別賞（運営委員長賞）」

環境省は環境に配慮した投融資の拡大等に向けて、金融機関の自主的な取組として策定された「持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則（21 世紀金融行動原則）」の活動を支援している。平成 24 年度から開始した優良取組事例を選定する「グッドプラクティス選定」に加え、署名金融機関のさらなる取組推進のため、平成 26 年度より「最優良取組事例（環境大臣表彰）」の選定を開始した。

平成 29 年度には「特別賞 運営委員長賞」がつくれ、京葉銀行が受賞した。

表彰事例：「7 色の虹を千葉から未来へ～千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト～」

表彰式：2018 年 3 月 7 日

評価ポイント：（以下、21 世紀金融行動原則サイトより文引用）

#### ■取組の効果

【先進性】銀行窓口への小型家電回収BOXを設置による環境負荷低減、資源再利用の意識啓発活動

【独自性】国立大学と銀行の産学連携による包括的で大規模なプロジェクトの実施。学生参加による取組み

【継続性・ステークホルダーへの意識改革を促す】通年で複数の企画を継続的に実施。次年度以降も継続の方針

【社会へ与える影響】企業経営者から地域の子供まで幅広い対象への活動。SDGs の達成にもリンクする取組み

#### ■該当原則 原則 3 原則 4 原則 5 原則 6 原則 7

#### ■選定理由

地域金融と環境意識の高さで知られる国立大学が連携したユニークな取組

EA21 の活用など実践的な内容を含み高く評価できる。



## 5、まとめと来年度の展望

### (1) 総括

企画	評価	進行状況
1、京葉銀行による学生委員会の環境活動支援	○	ご支援を有効に活用できた
2、学生による「エコアクション21」取得コンサルティング	△	今年度は準備、来年度に本格実施
3、学生発案の7つの環境貢献企画		
①千葉大生とともに考える 企業のための環境セミナー	○	実施できた。来年度も継続したい。
②こどもエコまつり	○	実施できた。来年度も継続したい。
③千産千消フェア～ちばを食べてエコしよう～	○	実施できた。来年度も継続したい。
④Chiba クリーンアクション	×	来年度に始動する予定
⑤都市鉱山発掘プロジェクト	△	今年度は準備、来年度に本格実施
⑥エコ発信局	○	実施できた。来年度も継続したい。
⑦京葉銀行エコチャレンジ	○	実施できた。来年度も継続したい。

### (2) プロジェクトリーダーより

まずは、本プロジェクトの着想から現在に至るまで、惜しみなく協力してくださった京葉銀行様に深く御礼を申し上げます。本プロジェクトによって当委員会の活動は著しい発展をとげました。

「1. 委員会の環境活動支援」では、国内・海外の会議等に参加した回数は、昨年度を大きく上回り、今までの活動では得られなかったであろう経験や知見を獲得し、委員会が新たな一步を踏み出す年となりました。

「2. エコアクション21 コンサル」では京葉銀行様が幅広く企業とつながりをお持ちだったおかげで、ここまでの進展することができました。

「3. 7つの環境貢献企画」ではこれまでにない規模・場所で活動する機会をいただきました。

「①企業のための環境セミナー」「②こどもエコまつり」では、学生の身分では関与することが難しい舞台での発表・イベントに挑戦し、参加した学生一同のステップアップになりました。「③千産千消フェア」「⑤都市鉱山発掘プロジェクト」は、京葉銀行様の広いコネクションに支えられ、大学や地域のくくりを超えた大規模な企画を

実現することができました。「⑥エコ発信局」ではHP制作ありがとうございました。「⑦京葉銀行エコチャレンジ」では、普段見ることのできない銀行内部の様子を拝見し、行員の方々と接することで貴重な社会勉強となりました。ご提案したエコアイデアによって、御行の環境負荷削減・経費節減がなされたならば望外の喜びです。

これらの企画の達成により、今年度は非常に広範囲の環境意識啓発に貢献したと思います。

来年度の展望としては、「エコアクション21 コンサル」や「④Chiba クリーンアクション」等の未実施・継続中の企画を進め、プロジェクトを一通り完遂したいと思っています。そのうえで、既に実施した企画を充実させ、再度実践できれば大変嬉しいです。

最後に、もう一度ご尽力に御礼申し上げるとともに、引き続きのご支援をお願いして、結びの言葉といたします。ありがとうございました。今後ともよろしく願い申し上げます。

プロジェクトリーダー  
浅輪 光 (文学部2年)